

## 「総務省の政策評価に関する有識者会議」（第2回会議）

### 議事概要

- 1 日時：令和5年8月21日（月）15時30分～17時00分
- 2 場所：総務省第1特別会議室（中央合同庁舎第2号館8階）
- 3 出席者：次のとおり（※は座長）。

#### （1）総務省の政策評価に関する有識者会議構成員

北大路信郷 株式会社政策情報システム研究所 代表取締役所長※  
重川 純子 埼玉大学教育学部教授  
新藤 健太 日本社会事業大学講師  
田淵 雪子 行政経営コンサルタント  
西出 順郎 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科専任教授  
山本 清 東京大学名誉教授

#### （2）総務省

令和5年度評価対象政策の担当者等

### 4 議事概要

各政策の部局担当者から、評価書案について説明後、有識者から御意見を伺った。主な意見は以下のとおり。

- 第Ⅱ部においては、今後注力・工夫等したい分野について記載することになっているが、なぜ当該事業が取上げられたのか、ほかの事業はどうなっているのか等の第Ⅰ部からのつながりが、読む側には分かりにくい。政策全体で見て、その政策が当初に設定したゴールに向かって進んでいるのか、スピード感も含めてこのままでいいのかといった視点から評価をした上で、第Ⅱ部として取上げる必要はないか。このような視点を取り入れて、評価書として取りまとめないと、読む側も戸惑ってしまうことがあるのではないか。どのようにすれば、政策評価書の作成作業の負担感が少なく、また読む側である国民にとって分かりやすいものになるか、トライアンドエラーで検討していただきたい。その観点から、実際に対応した部局担当者からこれまで実施していた政策評価と制度見直し後の政策評価を比較して、やりやすかった点、やりにくかった点、改善策など伺いたい。
- この会合の場で、評価書についてをそれぞれ説明いただいたことで、非常に理解が深まった。資料だけではわかりにくかったものも説明を聞いたら、よく出来ていると感じる。ほかの委員が音声動画を活用した評価書の説明を提案していたが、確かに音声動画の解説があるのは良いと感じた。

- 既存の資料を活用し重複作業を排除しながら。これまでの評価分析を行うことができれば、読む側にとっても分かりやすい評価書になるだろう。
- 評価書上の文章や図などの視覚情報だけではなく、音声による説明を付すことについても、機会があればパイロット的にでも検討いただきたい。
  
- 読み手によって、各政策の評価書の読みやすさの違いはあると思うが、政策の全体像があって、今後やろうとしているところについて、なぜそれが必要であり、現状、そして今後何をしていくかが非常に分かりやすく記載されている評価書もあった。
- 分野によって作成しやすさは異なるだろうが、この会合の場での、口頭の補足説明のようなものを、評価書上、文章で補足できればわかりやすさの点でよいのではないか。
  
- 今回の評価書は、予算要求に向けたもののような印象。他方で、本来の政策評価で求められる効果や妥当性の把握については、見えにくいものになり、必要性に重点を置いた評価書の構成になってしまうのではと危惧している。様式の見直しにより、説明しやすい、図表があってわかりやすいというのは理解するが、政策評価により、当該政策・事業の必要性を担保することや国民に対するアカウンタビリティの観点からは、若干の危機感を覚えた。
  
- 評価をどのように意思決定に用いるか、例えばそれは重点施策を選ぶ際に、評価情報を使うということだろう。評価の設問があって、設問に対する答えがあって、それらをもって当該施策を重点施策として選んだという仕立てがあれば、評価を使って重点施策を選んでいったということが非常にわかりやすくなるのではないか。

(文責：総務省大臣官房政策評価広報課)